

母の祈り



Happy Mother's Day

シリーズ～チェンジ～
2016/5/8 母の日

悲しみに暮れる女性

- ・ ハンナはエフライム人エルカナの妻であったが、子どもが与えられなかった<サムエル記上>
 - もう一人の妻ペニナには多くの子どもがいた
- ・ ペニナは何かにつけてハンナを苦しめ、特に年に一度の参詣は絶好のチャンスだった
 - 主にいけにえを献げ、残りを妻と子どもたちに分けた
 - 「彼女を敵と見るペニナは、主が子供をお授けにならないことでハンナを思い悩ませ、苦しめた。毎年このようにして、ハンナが主の家に上るたびに、彼女はペニナのことで苦しんだ。今度もハンナは泣いて、何も食べようとしなかった。」1:6-7

必死の祈り

- ・ エルカナはハンナを慰めたが…

- 「ハンナよ、なぜ泣くのか。なぜ食べないのか。なぜふさぎ込んでいるのか。このわたしは、あなたにとって十人の息子にもまさるではないか。」

- ・ 泣きながら激しく祈るハンナ

- ハンナは**悩み嘆いて主に祈り、激しく泣いた**。そして、誓いを立てて言った。「万軍の主よ、はしための苦しみを御覧ください。はしために御心を留め、忘れることなく、男の子をお授けくださいますなら、その子の一生を主におささげし、その子の頭には決してかみそりを当てません。」1:10-11

ハンナのチェンジ

- ・ハンナが声を出さずに祈っていたので、祭司エリは彼女が酒に酔っているのだと思った
 - 彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましてきなさい。」1:14
- ・ハンナは心を注ぎだして祈っていた、と答える
 - 「わたしは深い悩みを持った女です。…ただ、主の御前に心からの願いを注ぎ出しておりました。」15
- ・エリは慰めを言ったが、ハンナは人が変わったようにすっきりした
 - 「それから食事をしたが、彼女の表情はもはや前のようではなかった。」18

ハンナのチェンジ

- ・ハンナが声を出さずに祈っていたので、祭司エリは彼女が酒に酔っているのだと思った
 - 彼女に言った。「いつまで酔っているのか。酔いをさましてきなさい。」
- ・ハンナは心と答える
 - 「わたしはただ、主の御前に心を変えました。」15
- ・エリは慰め変わったようにすつき
 - 「それから食事をしたが、彼女の表情はもはや前のようではなかった。」18

祈りきった時
ハンナの心が
変わった

ハンナの献身

- ・ 主はハンナを憐れみ、男の子を与えられた
 - 「ハンナは身ごもり、月が満ちて男の子を産んだ。主に願って得た子供なので、その名をサムエル (その名は神)と名付けた。」1:20
- ・ 生まれた年の参詣には行かなかった
 - 「この子が乳離れしてから、一緒に主の御顔を仰ぎに行きます。」1:22
- ・ 翌年の参詣に幼子を連れて行き、主に献げた
 - 「わたしは、この子を主にゆだねます。この子は生涯、主にゆだねられた者です。」1:28
 - 一番可愛い時期だが、ハンナは誓いを守った

ハンナの賛美 2:1~10

ハンナは祈って言った。「主にあってわたしの心は喜び／主にあってわたしは角を高く上げる。わたしは敵に対して口を大きく開き／御救いを喜び祝う。


食べ飽きている者はパンのために雇われ／飢えている者は再び飢えることがない。子のない女は七人の子を産み／多くの子をもつ女は衰える。

主は命を絶ち、また命を与え／陰府に下し、また引き上げてくださる。主は貧しくし、また富ませ／低くし、また高めてくださる。

主の慈しみに生きる者の足を主は守り／主に逆らう者を闇の沈黙に落とされる。人は力によって勝つのではない。」

後日談

- ・ **サムエルは神殿の下働きとなった**
 - 「サムエルは、亜麻布のエフォドを着て、下働きとして主の御前に仕えていた。」2:18
- ・ **ハンナは参詣の度にサムエルに上着を届けた**
 - 「母は彼のために小さな上着を縫い、毎年、夫と一緒に年ごとのいけにえをささげに上って来るとき、それを届けた。」2:19
- ・ **その後、ハンナには5人の子どもが与えられた**
 - 「主がハンナを顧みられたので、ハンナは身ごもり、息子を三人と娘を二人産んだ。」2:21



祈りきると、
現実が変わる前に
あなた自身が変わる

Happy Mother's Day